

平成 29 年度 第 2 回 長野市放課後子ども総合プラン推進委員会  
議事要旨

○開催日時 平成 29 年 9 月 29 日（金） 午前 10 時から午前 11 時 20 分まで

○場 所 市役所第一庁舎 7 階 第二委員会室

○出席委員 小山 隆 放課後子ども総合プラン運営委員会（浅川小学校区）  
堀内 澄子 長野市地域児童育成活動連絡協議会  
石坂 晶子 長野市 P T A 連合会  
石田 三千夫 長野市民生委員児童委員協議会  
内田 五月 放課後子ども総合プランコーディネーター（城山小学校区）  
岡田 美香 公募委員  
大日方 進 長野市児童館館長・施設長会  
北澤 麻弥 放課後子ども総合プランアドバイザー  
佐々木 章 公募委員  
丸田 俊也 長野上水内校長会（小学校校長会）

○出席事務局 14 人（上杉こども未来部長、櫻井こども政策課長、樋口教育次長副任、上石学校教育課長、町田保健給食課長ほか）

○傍 聴 者 3 人

○報道機関 0 社

○議事要旨

発言者	内容
事務局	1 開会 ・ 推進委員会として成立していることを報告 ・ 公開であることを説明
	2 あいさつ ・ 委員長
	3 議事 協議事項「長野市放課後子ども総合プラン事業ガイドライン（素々案）について」
事務局	「資料 1」により説明

委員	<p>おやつは、おなかをすかせている児童のためだけでなく、児童を落ち着かせる役割もある。できれば各施設で提供していただきたい。</p>
委員	<p>おやつの方針は運営委員会で決定しているが、そこに保護者の意見はほとんど反映されないのが現状である。</p> <p>今回、市がある程度統一した方針を示したわけだが、それでも地域によって差が出てしまうと思う。</p> <p>利用料設定の理由を明確にするのは良いことだが、おやつを提供するしない、提供する場合の金額や内容は施設によってかなり違うのではないか。現在、おやつのお金額等はどうなっているのか、</p> <p>また、おやつ代には教材費が含まれるものなのか実態をお伺いしたい。</p>
事務局	<p>児童館・児童センターと子どもプラザを比べると、低学年の児童が多い児童館・児童センターで提供している施設が多く、金額は高い施設で月額3,000千円程度、低い施設で月額1,500円程度である。</p> <p>子どもプラザでは、おやつを提供していない施設の方が多く、金額は低い施設で年額6,000円、月額にすると500円程度、高い施設で月額2,500円から3,000円程度である。</p> <p>料金には、教材費を含むとしている施設もあり、例えば月額2,000円の場合、おやつ代が1,500円、教材費が500円などとしている。</p>
委員	<p>児童数の多い施設ではおやつを提供に苦慮しており、何人の児童が来所するか分からないため、おやつに無駄が出てしまうなどとお聞きする。</p> <p>ガイドラインでは、おやつを提供を保護者アンケートを実施した上で、運営委員会に諮って決定するというので、そのような手続きで良いと思う。</p> <p>なお、料金設定の理由を明確にするとあるが、どの程度明確にするのかお伺いしたい。</p>
事務局	<p>例えば、1食当たりの料金と月に何回提供するか、また、教材費は何円で、合わせて月額何円になるかなどをお示しいただきたいと考えている。</p>
委員	<p>おやつを提供するためには、おやつを注文する、受け取る、配る、食べさせるなどの手間がかかり、児童数の多い施設ほど大変である。</p> <p>職員の立場からすると、おやつを提供しない方が楽ということになるが、それでもなるべく簡易な方法、例えばパック包装されているものを出し、余ったら次回に提供するなど、それぞれ工夫して提供している。</p>

委員	<p>アドバイザー活動で茶道を教える際、お菓子代をどこから支出するか問題になった。</p> <p>一般会計からは支出できないので、運営委員会の予算から支出したが、そのような対応で良いか。</p>
事務局	<p>一般会計とは、市が事業者を支払う委託料から施設に配分されるお金で、これは施設の修繕や消耗品の購入などに充てる費用であり、おやつ代など食糧費には充てられないものとしている。</p> <p>お話しいただいた事例は、アドバイザー活動の一環ではあるが、この規定を厳格に運用いただいたものと認識している。</p>
委員	<p>体験活動の提供に関して、地域差を解消するため、活動は週1回以上と規定しているが、これは良い提案だと思う。</p> <p>しかし、中山間地域では、依頼しても来ていただけるアドバイザーが少なく、このような目標を立てていただいても、とてもできるものではない。</p>
事務局	<p>放課後子ども総合プラン事業には文部科学省所管の放課後子供教室があり、そこで週1回程度を実施の目安としているため、今回、目標値としてガイドラインに規定したものである。</p> <p>週1回とは、あくまでも目安であり、これ以上実施しなければならないというものではない。</p>
委員	<p>施設へは、アドバイザーへの謝金として活動費が配分されているが、来ていただけるアドバイザーが少なく、半額程度を返却している。</p> <p>学生アドバイザーを依頼したいが、交通手段が確保できないため来ていただけない。活動費の一部をタクシー代などの交通費として支出できないか検討いただきたい。</p>
事務局	<p>謝金とは別に交通費的なものを予算化できるか検討したい。</p>
事務局	<p>本市は市域が広く中山間地域と市街地ではかなり事情が異なる。</p> <p>また、プラン施設は全93施設あり、それぞれに地域性があるため、活動内容も様々である。</p> <p>現在、各校区ではコミュニティスクールを導入して地域の方々が学校の活動に参加いただいている。</p> <p>ある中山間地域の学校では、地域にどのような特技のある人がいるのか調査した結果、実に様々な特技を持つ人がいることが分かり、そういう方々に活動していただければどうかということになった。</p>

	<p>アドバイザーも遠方から来ていただくのは難しいが、地域にいる特技を持つ方を掘り起こし、子どもたちとの交流を深める方法もある。</p> <p>地域に根差した取組みをすることで、地域に愛着も湧くし、地域の施策にもつながるのではないかと。</p> <p>また、先ほどのおやつについても地域性がある。例えば、午後5時頃に帰る児童が最も多いと、午後4時頃おやつを提供したら、すぐに夕食になってしまう。</p> <p>また、おやつにおにぎりを提供している場合、午後3時頃の提供は良いが、午後5時頃だとおなかに重いだらう。</p> <p>おやつは金額と内容、提供する時間が大切であり、これらは地域によって様々であろう。</p> <p>これらを統一できるかが課題であるが、統一することでかえって地域の独自性が失われ、うまくいかないことも考えられる。どこまで統一するか、悩ましいところである。</p>
委員	<p>コミュニティスクールを導入するに当たり、地域で人材を掘り起こす必要があり、地域の方々に公民館活動として昔からやってきたことを子どもたちと一緒にやってほしいとお願いした。</p> <p>アドバイザーの掘り起こしについても、これと同様に工夫をして、いろいろな人に参加をお願いしなければならない。断られることもあると思うが、それでもやらないと状況は苦しくなると思う。</p>
委員	<p>ある中山間地域の施設では、館長が地域のお年寄りを集めて、何でもいから児童に教えていただきたいとお願いし、アドバイザー登録説明会に参加していただいたという事例もある。</p> <p>このように、各館長はなるべく地元から人材を吸い上げ、アドバイザーを確保する工夫をしている。</p> <p>しかし、アドバイザーの皆さんも仕事を持っていたりして、なかなか来ていただけないのが現状である。</p>
委員	<p>職員研修について、全国研修への派遣も検討しているとのことだが、支援員は家庭を持っている方が多く、2泊3日の研修だと参加いただけないのではないかと。回数を分けてそれぞれの期間を短くするなどの対応が必要ではないかと。</p> <p>全国研修は、いつ頃から、どのような内容で行うのかお伺いしたい。</p>
事務局	<p>放課後児童クラブの全国組織があり、そこが主催する研修会に支援員を派遣することを考えている。ご指摘のとおり2泊3日のため、どれだけの人が参加いただけるか分からないが、市内8ブロックの中から毎年1人ずつ派遣したいと考えている。</p>

委員	<p>学校は義務教育である一方、児童センター・子どもプラザは希望者が行く場所なので、子どもたちも羽を伸ばしてしまい、支援員・補助員の皆さんは苦勞されていることと思う。</p> <p>学校と施設の職員は、子どもたちの状況について日頃から情報交換をしているが、子どもたちがそれぞれの場所で見せる顔が違うため、うまくいかないのが現状である。</p> <p>では、ガイドラインをどのように修正すれば、そのような現場の状況が良くなるのか、難しいところである。</p> <p>長野市放課後児童健全育成事業の設備及び運営の基準に関する条例第10条で支援員の資格等について規定しているが、館長・施設長になる人も支援員としての資格が必要かお伺いしたい。</p>
事務局	<p>館長・施設長が保有すべき資格というものはない。館長・施設長は運営委員会の内申をいただいて就任いただいている。</p>
委員	<p>館長・施設長は高齢の方が多いうのだが、児童に関する知識が古いように感じる。</p> <p>時代や子どもたちの状況が変わってきている中で、どのようにして子どもたちと接すればいいか、職員研修や情報共有が重要になってくる。その点を大切に考えていただけるとありがたい。</p> <p>コミュニティースクールも整備されてきて、地域との連携も重要視されている。今後は、児童センター・子どもプラザ、学校がそれぞれ独自で考えるのではなく、地域として子どもたちを健全に育成していく上で、それぞれがどのような働きをしたらいいのか、どういう接し方をしたらいいのか、包括的に考えていかなければならないと感じている。</p> <p>4 その他</p> <p>5 閉会</p> <p style="text-align: right;">以上</p>